

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は、日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

マダガスカル共和国月報（2017年1月）

主な出来事

- 6日、ラジャオナリマンピアニナ大統領が新年祝賀会を開催。
- 25日、ラジャオナリマンピアニナ大統領就任から3年が経過。
- 7日及び8日、王毅中国外交部長がマダガスカルを来訪。
- 24日及び25日、エルドアン・トルコ大統領がマダガスカルを公式訪問。
- 26日から31日まで、ピエトロ・パロリン・バチカン國務長官が当国を公式訪問。

【内政】

- ラジャオナリマンピアニナ大統領の国民向け2016年末演説
2016年12月31日、ラジャオナリマンピアニナ大統領は、国民向け年末演説を行い、その模様が国営テレビで流れた。政治的なメッセージはなかったことから、メディアは、6日の新年祝賀会でのスピーチで社会政策面でのより具体的な所信を表明することを期待している。（2日付当地各紙）
- ラヴァルマナナ元大統領とザフィー元大統領の会談
ラヴァルマナナ元大統領は、年末ザフィー元大統領と会談し、2017年に向けた政治的見通しについて議論した。（2日付ミディ紙）
- ラジャオナリマンピアニナ大統領主催新年祝賀会の開催
6日、ラジャオナリマンピアニナ大統領が、大統領府（ヤブルー宮殿）において、閣僚、政界関係者、経済界関係者、外交団等総勢約1,300名を招いた好例の新年祝賀会を開催した。ザフィー元大統領とラジョリナ前暫定大統領は欠席した。（7日付当地各紙）
- 南部地域における洪水発生
3週間に亘る豪雨により、チュレアルにおいて洪水が発生、死者5名、2,006世帯12,000名の被災者が出ている。また540ヘクタールに及ぶ耕作地が水没しており、全壊家屋も出ている。（19日及び20日付ヌーベル紙）
- 南部洪水に関するマダガスカル政府プレスリリース
20日より、マハファリ首相率いる政府代表団がチュレアルII郡を訪問した。21日、マダガスカル政府は、南部洪水に関するプレスリリースを発出し、首都の新聞3紙が報じた内容に反し、フィエレナ（Fiherena）川の増水は認められるも、ダムは崩壊しておらず、洪水被害に遭っている村は一つも無く、民家の崩壊も全く看取されなかった旨伝えた。（21日付プレスリリース）

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は、日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

- **ラジャオナリマンピアニナ大統領就任から3年が経過**

25日、ラジャオナリマンピアニナ大統領が就任してから3年経つが、依然としてマダガスカルには問題が山積みしている。(25日付ヌーベル紙)

- **2016年腐敗認識指数の発表**

25日、トランスペアレンシー・インターナショナルは2016年腐敗認識指数を発表した。マダガスカルは、175か国中、145位で、その評価は100ポイント中26ポイントであり、2015年比で2ポイント下落した。腐敗度の改善が見られていない。(26日付当地各紙)

【外政】

1. 日本との関係

- **生け花デモンストレーションの開催**

20日、日本国大使公邸において、豊田ライブ・生け花小原流講師及び同生徒による生け花デモンストレーション及び免状授与式が開催された。(21日付当地各紙)

- **柔道鏡開き及び講道館昇段証書授与式の開催**

21日、首都アンタナナリボで柔道クラブ HAKUDOKAN 主催（マダガスカル柔道連盟共催）による、柔道鏡開き及び講道館昇段証書授与式が開催され、小笠原日本国大使が出席した。(23日付当地各紙)

- **平成28年秋の外国人叙勲伝達式開催**

27日、日本国大使公邸にて、シシル・フィダ元駐日大使に対する旭日重光章伝達式が開催された。(28、30日付当地各紙)

2. 諸外国・機関との関係

- **アタラ外務大臣の2016年末インタビュー**

アタラ外務大臣は、マダガスカル外交に関するインタビューにおいて、「当外務省にとって2016年は実り多き年であった。マダガスカルの国際的プレゼンスの向上こそが実りある成果と言える。外務省の主導的・積極的外交により、2016年は多くの国際会議がアンタナナリボで開催されたことが好例である」と総括した上で、2017年は「収穫の年となろう」と強い期待を表明した。(12月29日付ヌーベル紙)

- **王毅中国外交部長の来訪**

7日及び8日、王毅中国外交部長がマダガスカルを訪れ、アタラ外相、次いでラジャオナリマンピアニナ大統領と会談し、無償供与に関する協定合意に署名した(8日付当地各紙)。なお、

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は、日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

中国系メディアでは、同大統領が「一帯一路」構想に賛同したと報じている。

- 中国春節式典における楊中国大使の発言

21日、楊中国大使は、春節式典において、王毅中国外交部長のマダガスカル訪問は、中国・マダガスカル関係にとって重要な節目となったと述べた。また、すでに実現された道路整備プロジェクトに続き、更なる道路案件が計画されている旨語った。(23日付ミディ紙)

- エルドアン・トルコ大統領の来訪

24日及び25日、エルドアン・トルコ大統領がマダガスカルを公式訪問した。両国間で重点分野の協定が多数結ばれるとともに、分野横断的な協定の交渉が開始された。(25日付大統領府プレスリリース)

- エルドアン・トルコ大統領のギュレン派の扱いを巡る動き

エルドアン大統領は、政敵フェトフッラー・ギュレン氏に対抗するにあたり、マダガスカルがギュレン派の2つの学校「Ecole La Lumiere」及び「Institut Ravinala」を閉鎖する等の要求に従えば、6,000万米ドル分のプロジェクトのための資金・借款供与、また省庁に技術・支援協力を行うと約束した。(26日付ガゼット紙)

- バチカン国務長官の来訪

26日から31日まで、マダガスカル・バチカン50周年を記念して、ピエトロ・パロリン(Pietro Parolin)バチカン国務長官が当国を公式訪問した。滞在中、同国務長官はラジャオナリマンピアニナ大統領表敬、大規模ミサの実施、外交に関する講演等を行った。(2月1日付当地各紙)

- 第28回AU総会がアディスアベバで開催

30日及び31日、ラジャオナリマンピアニナ大統領及びアタラ外務大臣が、エチオピアのアディスアベバで開催された第28回AU総会に出席した。(2月1日付当地各紙)

【経済】

1. マクロ経済

- 中国企業のソアマハマニナ金鉱山採掘許可保持継続

Jiuxing Mines社は、今もってなおソアマハマニナの採掘許可証を保有しており、当問題は終息していない。(9日付エクスプレス紙)

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は、日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

- 中国企業のアンバラダラ (Ambaladara) 違法金採掘に対する告発

マダガスカル東部マナンジャリー (Mananjary) 地区のアンバラダラにおいて、2016年9月20日から住民の要望を受けて中断されていた金の採掘が、同年12月25日から再開された。NGO 団体「Graad-Oi」及び「Le Collectif Tany」は、9日付プレスリリースを発売し、この金の採掘は住民にとって健康上の危険性があると問題提起した。(10日付ヌーベル紙)

- 2017年予算法

10日、2016年末に国民議会及び上院で採択された2017年予算法が、当国財務・予算省のウェブサイトに掲載された。全体として1兆9,302億518万8千アリアリ(約3,980億円)の均衡予算となっているが、一般予算は赤字予算(マイナス1兆2,640億6,513万アリアリ(約460億円))であり、対内及び対外債務1兆6,824億1,860万アリアリ(約612.7億円)等を計上することで予算の均衡を保っている。

- JIRAMA 社長の解任

19日、マダガスカル全土に影響を及ぼしている度重なる停電及び断水の責任を取り、ラザファンジョリアカ (Razafindroriaka) JIRAMA 社長が、解任された。(19日付レクスプレス紙)

- 中国が第一の輸入先国

税関総局発行の資料によると、2016年の中国製品の輸入額は2兆850億アリアリ(約760億円相当)に上り、初めて中国がヨーロッパに変わって輸入先国首位となった。また、2015年新設の外国企業484社のうち、中国企業が168社、フランス企業が110社であった。一方、中国への輸出額はマダガスカル輸出額全体の8%に止まり、EUが45%を占め、依然として貿易相手として首位を保っている。(24日付レクスプレス紙)

2. 経済協力

- ラヌマファナ (Ranomafana) 市に水力発電所建設

2017年の年初より、アンカツベとフェヌアリボの間に位置するラヌマファナ市に、マダガスカル政府と中国企業との協力関係により、4年間に亘る2万7千万米ドルの譲許的借款で、出力86メガワットの水力発電所建設工事が開始される予定である。発電所の管理は Jirama に委託される予定。(2016年12月21日付ヌーベル紙)

- 自然災害に関する中国政府の援助

楊中国大使は、マダガスカル南東部のマハズアリボ (Mahazoarivo) で開催された式典において、テント320張、折りたたみ式ベッド1,500台、蚊帳1,500張を供与した。(26日付ヌーベル紙)

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は、日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

- JICA・TaToM プロジェクトの開始

27日、JICAによるTaToM アンタナナリボ・トアマシナ経済支線開発計画策定プロジェクトが公式に始動した。2年に亘る350万米ドルのプロジェクトで、アンタナナリボ州の38市(コミューン)及びトアマシナ州の5市で構成される都市計画マスタープランを作成する。(28日付ミディ紙)

- ノシベ草の根・人間の安全保障無償資金協力署名式

26日、大統領府にて、日本が支援する「ノシベ地域性暴力被害者総合支援センター建設計画」の署名式がラジャオナリマンピアニナ大統領夫人出席のもと実施された。(27日付ヌーベル紙)

- マジュンガ及びアンブヒマンジュス草の根・人間の安全保障無償資金協力署名式

31日、日本国大使公邸にて、草の根無償「マジュンガI郡アンタニマランディ公立中学校改修計画」及び「アンブヒマンジュス公立中学校増設・改修計画」の署名式が実施された。(2月1日付当地各紙)